

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：京都府 京都市立凌風小中学校

活動名：カリマネのシステム化 キャリアを軸につながる小中一貫校

解決すべき課題：

凌風学園は、学園生の学力の向上を目標にし、小中一貫教育校として一定の成果を出すことができた。しかし、開校 9 年目を迎え、カリキュラム・マネジメントを進めていく際に、学園として何を軸にして研究していくのかが定まっていないことに気付くこととなった。さらに、小中一貫校ならではの学校システムの中で、どのようにしてカリキュラム・マネジメントを継続していくのかが課題となった。

目標・方針：

学園生の実態に応じながらも、小中一貫校ならではのカリキュラム・マネジメントの軸を設定する。そして、カリキュラム・マネジメントを継続して進めるために、システムとして機能するようにする。

活動内容：

- ① 学園生の学校生活の様子について、学年を越えて交流し、傾向をつかみ実態を把握する。
- ② 学園教育目標や①をもとにカリキュラム・マネジメントの軸を設定する。
- ③ カリキュラム・マネジメントを回し続けるために、校務分掌にカリキュラム・マネジメントを位置付ける。
- ④ カリキュラム・マネジメント担当には、将来性を考えて人員配置をする。
- ⑤ カリキュラム・マネジメント担当を PDCA の要とし、新たな取組や実践の提案、研修の企画を行う。
- ⑥ カリキュラム・マネジメントに対する意識調査を行い、効果を分析する。

活動の成果：

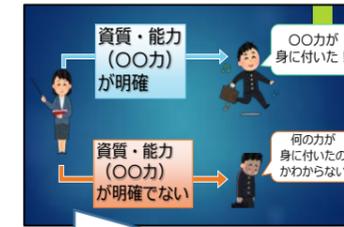
○ 教員対象のアンケート結果によると、「カリキュラム・マネジメントは大切だ」、「カリキュラム・マネジメントは授業改善につながる」という設問に対して肯定的に捉えている教員が約 95%であった。
 ○ アンケートでは、「カリキュラム・マネジメントを積極的に進めたい」という設問に対して、約 95%の教員が肯定的に回答したことから、校内研修を通して、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解しつつ、その取り組み方への道すじができていくことが推察される。
 ○ アンケートの自由記述欄には、「教科としてどのような資質・能力に重点を置き実践をするかは有効であると感じた」「他校の実践事例についてもっと知りたい」「教科をつないだときの評価を各教科においてどうするか」といった意見があり、教員の積極的な姿勢がみられた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ① 小中一貫教育の観点から、義務教育 9 年間を通して資質・能力が育成でき、前期課程の教員・後期課程の教員から取組の工夫やアイデアが今後も出てくるようにキャリア教育を軸として設定した。
- ② 学校組織の PDCA サイクルを回し続けることができるように、複雑な小中一貫校の校務分掌の中に新たにカリキュラム・マネジメント担当を設定した。
- ③ カリキュラム・マネジメントの担当は、カリキュラム・マネジメントの要となるだけでなく、今後の学園の要となるようなシステムとした。
- ④ 指導案にキャリア教育の視点での目標を教科の目標とは別に明記するようにし、意識の向上をねらった。

筋道立てた校内研修の実施

① 今後に向けたガイダンス



資質・能力を明確にし、カリマネを進めていくことの効果を知る

② 思考ツールを使って、資質・能力、カリマネの軸の明確化（校内研修）



学園生の実態や学園教育目標の見直しから、資質・能力を設定する

③ キャリア教育を軸にどのような取組ができるかを考える（校内研修）



思考ツールを使って、実現できそうな取組（ピンク色の付せん）、実現できにくそうでもやってみよう取組（緑色の付せん）を第1ステージ（1～4年）・第2ステージ（5～7年）・第3ステージ（8・9年）の担当で作ったグループで考える。

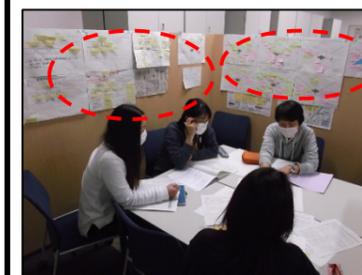
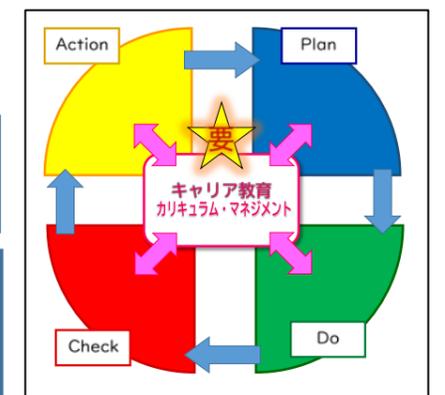
	3つのつなぐ(案)まとめ			
	実現可能なもの		おもしろいと思うもの	
	既存のもの	新規のもの	既存のもの	新規のもの
人と人をつなぐ	異学年交流 ペア、グループトーク	たてわり行事を増やす たてわり遊び⇒たてわり遠足 給食での交流 たてわり運動会 コの字型の座席配置	地域の福祉施設、保育所等との交流 地域の店の方に来てもらう たてわりを増やす(1から9の)	京都芸大との交流 放課後グラウンド開放 全校給食 学年へへ掃除に行く
授業をつなぐ	めあてと振り返り カリマネ(教科⇒総合) 単元構想を立てる(ゴールをもつ)	授業の振り返り 全授業ペア学習かグループ学習 異学年交流授業	地域の店の方に来てもらう 地域マップ	全学年共通の探究活動 合同教科授業(英×体など) 上級生のゲストティーチャー 上級生が授業をする
未来社会とつなぐ	たてわり授業 振り返り(ついたか⇒いかすところ)	自主勉と一言日記 振り返り(同じ型で)	午睡 インターンシップ 出前授業(いろいろな職業から)	全校総合学習 9年生論文発表

令和 2 年度 教職員組織表より抜粋

令和 2 年度より新設!



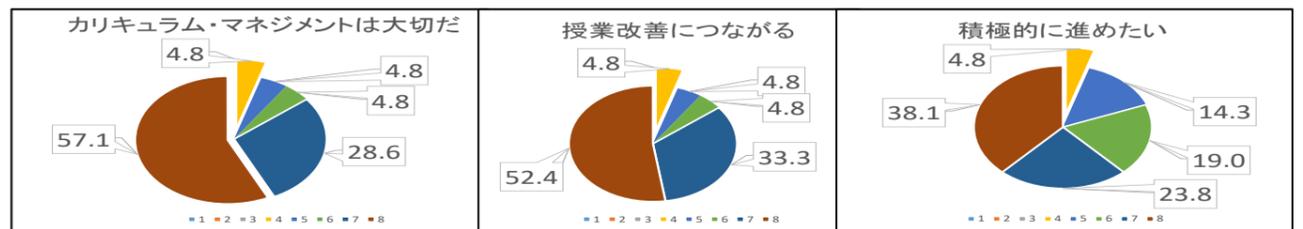
図 1 カリキュラム・マネジメント担当の校内における役割のイメージ図



研修で使用した思考ツールを掲示しながら、キャリア教育&カリマネの分掌の会議を行った

PDCAの「要」として
 ○4つの資質・能力を具体化
 ○指導案にキャリア教育の視点での目標を明確化

図 2 アンケート調査の結果



○「カリキュラム・マネジメントは大切だ」、「授業改善につながる」、「積極的に進めたい」という設問に対して肯定的に捉えている教員が約 95%であった。
 ⇒今後、キャリア教育を軸としてカリマネを進め、総合的な学習の時間や教科の指導と関連付ける